

【見本】

様式 6

認定医メンテナンス 10 症例

症例番号 1 _____

歯周外科 (有・無)

初診年月日 : 2000年8月1日
患者(イニシャル可): A・A 50歳 男性
主訴 : 歯肉から出血する
現病歴 : 5年ほど前から全顎にわたり歯肉の出血及び腫脹があり、1年位前からひどくなってきた。

既往歴 : 全身的に特記事項なし

特記事項 : 特になし

口腔衛生状態 :

プラーク指数 初診時 88% 基本治療終了時 20% メインテナンス時 15%

歯列咬合状態 : Angle Class 、早期接触有り

原因的事項および修飾的因子 :

1. 歯肉縁下歯石の沈着とプラークの付着
2. 咬合性外傷
3. 不良補綴物による清掃不良と食片圧入

診断名 : 中等度の慢性歯周炎

治療経過 (箇条書き)

1. 歯周基本治療 (TBI、SRP)
2. 左右臼歯部 咬合調整
3. 左上4~7番 暫間固定
4. 左下7番 抜歯
5. 再評価

【歯周外科処置】

1. 2001年1月13日 右上臼歯部 FOP
2. 3月1日 右下臼歯部 FOP
右下5番 エムドゲイン
3.

【補綴処置】

1. 2001年12月1日 右上4~7番連結補綴
2.
3.

まとめと今後の対応

下顎前歯部に叢生を認めたため、矯正治療を考えたが患者の希望により歯周基本治療によるプラークコントロールで改善を図った。患者の協力により、現在も良好に管理されている。
3ヶ月から4ヶ月の間隔でリコールを実施しているが、口腔清掃の維持、咬合の管理に留意したメインテナンスが今後も必要である。

指導医氏名 : _____ 印